

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表 公表: 令和5年5月9日

事業所名 はぐハウスⅡ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	活動内容に合わせて広さや使い方を工夫している。	環境整備をする。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準以上の専門職を配置している。	配置基準は満たしているので、児童の様子や支援内容行事によって工夫している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	100%	0%		整理整頓を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	89%	11%	職員会議等で実施している。	全職員の参画、周知を工夫していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	89%	11%	アンケート結果については、話し合いながら、業務改善につとめている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	56%	44%	ホームページ等で公開している。	全職員への周知に努めます。
	7	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	施設内外の研修に参加している。参加出来ない場合は資料を提示している。	職員への積極的な参加を促し、スキルアップに努めます。
適切な支援の提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	モニタリング用紙や日頃の会話よりニーズを把握している。	
	9	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	78%	22%	独自のアセスメントツールを使用し、個々の特性や状況をもとに作成している。	
	10	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	保育士、理学療法士を中心に行っている。	
	11	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	78%	22%	季節や状況を考慮しながら計画的にしている。	全職員への周知に努めます。
	12	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	78%	22%	長期休暇は季節を考慮したイベントや集団活動を行っている。	長期休暇はみんなで一緒に出来る課題、個人の課題設定をしている。
	13	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	89%	11%	朝の会や季節の行事で集団活動を取り入れている。	全職員への周知に努めます。
	14	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝のショートカンファレンスを行っている。参加出来ない職員に申し送りしている。	
	15	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	終了時間が一定でないので、常勤職員で行い翌日申し送りをしている。	
	16	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	78%	22%	連絡帳や送迎時の申し送り等で情報交換、共有を行っている。	
	17	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	必要に応じてモニタリングを行っている。	
18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	100%	0%	ガイドラインの読み合わせを行ない、支援の基本活動を意識して児童と関わっています。		

関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	78%	22%	児童発達管理者だけにこだわらず、状況に合わせ必要と考える者が参画している。	
	20	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	89%	11%	必要に応じて情報の提供を行っている。	
	21	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	89%	11%	医療情報連携用紙にて連携を得ている。	
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	78%	22%	必要に応じて就学前の情報を取得し情報共有と相互理解に努めている。	スタッフ会議等で情報の共有をしています。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	89%	11%	必要に応じて情報の提供を行っている。	スタッフ会議等で情報の共有をしています。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	89%	11%	機会があれば積極的に参加します。	コロナが収束後には、積極的に機会を持っています。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	22%	78%		コロナ収束後検討していきます。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	56%	33%		コロナが収束後には、積極的に機会を持っています。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	連絡帳や送迎時の申し送り等で情報交換、共有を行っている。	
保護者への説明責任等	28	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時説明を行っている。	
	29	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	モニタリング時や悩みや困りごとなどの相談があった時に、傾聴し、助言を行っている。	
	30	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%		相談や申入れがあった際には、職員間で話し合い対応し、保護者へ周知・説明している。
	31	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	89%	11%	毎月のお便りを渡し、支援活動報告を行っている。	
	32	個人情報に十分注意している	100%	0%	個人情報の取り扱いについて保護者と書面で確認し注意している。	
	33	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	個々に合わせた意思疎通、情報伝達に努めている。	
	34	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	67%	33%		コロナが収束後検討していきます。

非常時等の対応	35	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	マニュアルは策定は出来ているので、周知する。訓練は定期的に児童参加で行っている。
	36	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	災害訓練、消防訓練は年間計画の中で立案し、児童と一緒にやっている。
	37	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	外部研修への参加と施設内での研修を行っている。
	38	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	支援計画への記載と職員間での検討、保護者への説明と確認同意のもと行っている。
	39	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	医師からの指示書をいただき保護者からも聞き取りを行い対応している。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	全職員が積極的に取り組み事例検討を行っている。